

「意思伝達装置」知って、重度障害者対象—機器紹介、トラブル時に対処 (札幌に専門 NPO 設立)

筋萎縮性側索硬化症（ALS）をはじめとする病気や事故などで、声を出すことや文字を書くことが困難となった人が、コンピュータを使って介助者らへ自分の思いを伝えるために使用する機器として「意思伝達装置」がある。装置の普及とサポートに特化した NPO 法人「iCare（アイケア）ほっかいどう」（杉山逸子代表）が 4 月に札幌で設立され、活動を始めている。

意思伝達装置は、手足の指やまぶた、頬など、体のごく一部を動かすことで文章を作り、画面に表示したり人工音声にすることで、周囲にいる家族や介助者らに意思を伝える機器だ。

専用ソフトウェアが組み込まれたパソコンや、タブレット型コンピュータに似た専用機器に、体の一部の動きを感知するスイッチを取り付けることで動作する。病気や事故により体が思うように動かず、声も出せない場合は不可欠な装置だ。テレビのチャンネル切り替えや、インターネットを介したメールの送受信といった機能が付加されているものもある。

障害者自立支援法で定める「補装具」で、「認識力に問題がない」などの条件を満たせば、例えば本体なら 45 万円、機器固定台なら 5 万 820 円を限度に助成を受けられる。しかし、意思伝達に支障があ

る障害がありながら、機器自体の存在や助成制度についての情報がなかったり、サポート態勢が整っていないことなどから、利用していない人も少なくないのが現状という。

iCare ほっかいどうは、導入や操作に関するサポートに特化した活動を行うため、2002 年から重度障害者支援を展開してきた NPO 法人「札幌チャレンジド」から「のれん分け」の形で設立。「チャレンジド」は就労支援を重点とした活動を展開している。

杉山代表と共に札幌チャレンジドから移った佐藤美由紀・理事兼相談員が中心となり、3 人のボランティアスタッフと活動。医療機関や障害者宅を訪れ必要な機器などを選定したり、機器導入やトラブル時の対処などに取り組んでいる。また障害者本人や家族と医療機関、行政、支援者の連携を図り、導入の手引きや操作支援、メンテナンスにあたるパソコンボランティアを養成する研修会などを行っている。

iCare ほっかいどうでサポートする人数は現在、年間で約 40 人。

iCare ほっかいどうへの連絡は Tel（011-222-4462）か、E-mail（jimu@icare-h.org）で。

（北海道新聞・札幌 2012 年 5 月 31 日）

「バリアフリーでも世界一に」 スカイツリー開業式典に補助犬

世界一高い自立式電波塔「東京スカイツリー」（東京都墨田区）の足元に広がる複合商業施設「スカイツリータウン」のオープニングセレモニーが 22 日に開かれた。セレモニーには墨田区長や名誉区民の王貞治・福岡ソフトバンクホークス球団取締役会長らとともに、施設のバリアフリーについてアドバイスする日本介助犬アカデミーを代表して盲導犬、介助犬、聴導犬と使用者 3 組が参加した。

出席した介助犬使用者の木村佳友さんは「身体の不自由な人にも元気な人にとっても世界一優しい施

設になってほしい」と言う。

この日は身体障害者補助犬法が成立して 10 周年の記念日でもあり、3 組は「10 年前、同法の成立に立ち会ったみなさんを招待しました」と紹介された。

いまだに補助犬同伴の入店を断られる現状があるなか、新たな観光地として日本中の関心を集めるスカイツリータウンでは万全のバリアフリー計画を整えているという。

（福祉新聞・2576 号 2012 年 5 月 28 日）